

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！7月末時点で、第2期生4名、第3期生1名が海外留学中です！

第3期生の壮行会を開催しました！

7月19日に、基金を応援していただいている応援パートナーや関係団体などの皆様にお集まりいただき、これから海外へ挑戦する第3期生への激励をいただくとともに、第3期生の留学計画についてのプレゼンテーションと交流を行いました。

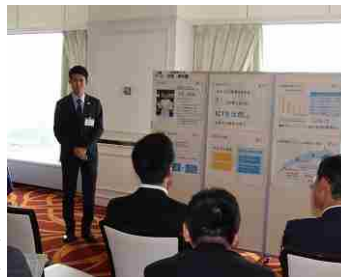
第1部では、開会にあたり鈴木知事が、基金に応援して下さっている皆様へのお礼を述べたほか、第3期生に向けては、「果敢に挑戦をし、様々な困難を乗り越えて頑張ってください。」とエールを送りました。

また、北海道議会村田議長からは、「若い力でこれからの北海道を支えていただき、世界の先進技術などをしっかりと吸収し、帰国後に活かしながら、北海道の未来のために頑張ってください。」と期待を込めたお言葉を、続いて、応援パートナーズリーダーである株式会社アミノアップの小砂会長からは、「北海道の産業、文化、スポーツの礎になり、北海道の未来を担っているという思いを持って、頑張ってください。」と激励をいただきました。

第2部では、第3期生がそれぞれのブースで、自らの留学目的や海外での活動内容などをプレゼンするとともに、来場者の方々と交流を行いました。

プレゼン終了後は、株式会社すし善の嶋宮代表取締役から、自らの海外経験を振り返って励ましのお言葉をいただきました。

最後に第3期生を代表して、海辺菜々美さんが、応援して下さっている皆様への感謝の気持ちを伝えるとともに、「留学の目的を果たすため、最大限の努力をしていくので、温かく見守っていただきたい。」と挨拶をしました。



留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 伊藤 昂 さん ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学中

今月は、大会運営のサポートを行いました。大会の1ヶ月前から広報、チームの組み合わせ、景品の用意、エントリーリストの作成をし、運営に携わりました。大会を成功させた今回の経験により、自信をつけることができました。コーチングでは、日本からテニス遠征にきた子どものコーチを担当し、今まで自分が世界で見てきたものを教えることができる良い機会だったので、コーチングスキルの実践に取り組みました。



第2期生 林 泰佑 さん ～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講

ウッドプログラムで、パーツを組み合わせて建築を立ち上げました。建築構成はモジュールユニット二つと屋根ユニットで成り立ち、大学で一度全て組み立てた後に、ユニット単位に解体して敷地に運びました。実際に建設が始まった時は、とても感慨深く、今までたくさんの苦勞を乗り越えてデザインしてきたものが独り立ちしていくことに感動しました。学生の身ながら、クライアントとユーザーがいる環境で実務経験を積めたのは、今後、様々な場面で生きてくると思います。



第2期生 星野 愛花里さん ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中

有機農協の組合員に聞き取り調査を行いました。10日ほどで計38農家のデータを集めました。この調査を通じて感じたのは、自給を第一とした考え方は、急激な社会変化の中で生き延びてきた術で、これを重要視しているやり方はむしろ強いのではないかとことです。また、北海道とのつながりについて考えたことは、キルギスからは、北海道や日本の製薬会社、有機化粧品会社に薬草を輸出できる可能性があり、帰りのコンテナには農業機械を乗せて運ぶこともできるのではないかとことです。



第2期生 立岩 丈武 さん ～大規模農業の手法を学び、北海道農業の持続を目指す～

大規模農業が進んだオーストラリアタスマニア州に、9月から10か月間留学し、6月に帰国

6月はテスト期間であり、第一週が勉強期間、残り3週間でテストを行います。受講できる授業数が最大で4つなので日本に比べると科目数は少ないですが、1つの授業は日本より多くの内容を扱っており、テスト時間も日本の倍の3時間あります。今回の留学で、留学前は考えなかったことを考えるようになるなど、物事に対する捉え方や視野は確実に広がったと思います。何を、どんな学びがあったのか興味を持ってくれる人には積極的に自分の体験を伝えていきたいと思っています。

スポーツコース

第2期生 梅村 拓未 さん

～バルシューレを学び、子どもの運動課題を解決～

バルシューレの創設元ドイツ・ハイデルベルク大学で、7月から11か月間研修し、6月に帰国

現場でバルシューレの指導者と指導者の育成にあたる立場の方にインタビューを行い、指導で難しいと感じる点、能力差のあるグループにどのような指導を心がけているかなどを聞きました。また、アスリートを育成する最初の段階として、日常の遊び

のような感覚でスポーツに夢中になり、必要な能力が身に付き、そのスポーツの面白さを覚えていくことが大変重要だと学びました。



第2期生 田中 怜恵子 さん

～本場でラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献～
ラグビーの本場ニュージーランドで、3月から6か月間、指導者と選手双方の立場からラグビープログラムに参加

プログラムでは週3回のウエイトトレーニングに加え、週1回の体幹トレーニングを行っております。

スーパーセットという異なった2種類のエクササイズを休憩せずに交互に行うトレーニングを行いました。

ニュージーランドでは怪我への対応も細かく行われており、国の医療制度があるとともに、怪我に対する意識も高いので、それがラグビーの強さにつながっていると感じました。



文化芸術コース

第2期生 鴻野 祐 さん ～「木」を深く学び、デザイナーとしてまちづくりに貢献～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、7月から1年間研修し、6月に帰国

駅プロジェクトが完成できず、6月末まで滞在を伸ばさせていただきました。私は手作業で精度を必要とされる作業を任せられ、建物の仮組みするための土台づくりや、ベンチ、梁部分の化粧材加工などを担当しました。家具デザイン、制作の経験を生かせる場面も多くありましたが、自分には技術や精度が足りていないと感じることも多く、今後自分には何が必要なのか、北海道に帰ったらどのような技術を習得すべきかなど、より深く考えさせられました。



北海道特派員（第1期生スポーツコース 山さん）からの活動報告（3月～6月）

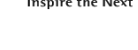
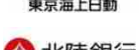
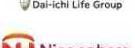
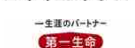
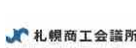
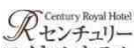
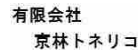
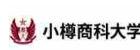
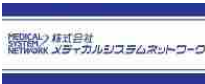
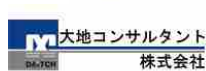
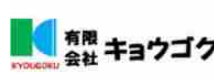
ニュージーランドで本場のラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献するため再渡航

3月に到着した頃、北海道の女子ラグビー選手3名が同じくラグビー留学を行ってまいりました。しっかりとプログラムが組まれている留学でしたが、一緒にトレーニングを行い、日々コミュニケーションを取りながら、充実した時間を過ごせました。また、日本から留学中の2人の少年にコーチングする機会があり、少ない人数・練習回数の中、どうしたらレベルアップできるか、ラグビーを楽しんでもらえるかを考えながら、基本スキル練習・スキルを活かしたゲーム等を行いました。



応援パートナーの皆様

(2019年7月現在・敬称略)



有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長)
船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業5者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



助成対象者のチャレンジ風景をお届けします。

